

水稲新品種「ベニセンゴク」について

山 川 寛

九州農業試験場

YAMAKAWA, Y. On the New Variety of Paddy rice, Benisengoku

昭和27年本品種の育成を完結し、昭和28年佐賀県において奨励品種に採用、普及されるに至つたので、育成の経過及び特性の概要を記して参考にする。

なお本品種の育成に直接従事した職員は溝口徳三郎三島武、松永健治、野口繁、西山寿及び筆者等である。

来歴並に育成経過

ベニセンゴクは昭和18年農林省農事試験場九州小妻試験地において、東海旭を母とし近畿39号を父として人工交配を行い、昭和21年熊本県農事試験場における農林省指定水稲新品種育成試験の材料として、雑種第3代種子の配布を受けて選抜し、次で昭和22年水稲育成試験が農林省佐賀農事改良実験所に移管されるに伴つて、雑種4代種子を受けつぎ、爾来選抜固定をはかり、昭和25年3月西海47号なる系統名を以て関係各県に種子を配布して地方的適否を確かめつつあつたが、昭和26年4月九州農業試験場(羽犬場)に試験が移管されたもので、昭和28年度に水稲農林82号

に登録され、ベニセンゴクと命名されたものである。

特 性 概 要

ベニセンゴクは神山より早熟の晩生(早)粳種で、やや短稈、穂数型、草状は良好、脱粒性は易である。稀に短芒を有し、稈先は褐色を呈する。(第1表)

第一表 一般特性

品 種 名	出穂期	穂揃日数	成熟期	結実日数	稈長	穂長	穂数
	月日	日	月日	日	cm	cm	本
ベニセンゴク	9.10	5	11.2	53	81.6	19.6	16.6
(比較) 神山	9.10	5	11.7	58	93.0	21.0	15.9
(〃) 神関	9.7	5	10.29	52	78.5	19.9	17.5
(参考) 農林18号	9.12	5	11.9	58	92.0	21.7	14.6

極めて強稈であつて、葉熱病並に穂首熱病には農林18号とはほぼ同程度に強く、白葉枯病に対しても相当に強いが、線虫心枯病耐病性は中程度である。又稈蠶及び螟虫に対しても抵抗性がある。(第2、3表)

第2表 耐 病 性

品 種 名	葉 稻 熱 病		穂 首 稻 熱 病			白 葉 枯 病		胡 麻 葉 枯 病	線 虫 心 枯 病
	昭 26	昭 27	昭 25	昭 26	昭 27	昭 26	昭 27		
ベニセンゴク	多	中少	少	31.3%	23.1%	中	少	中	13.4%
(比較) 神山	甚	多	多	45.7	71.0	中多	少	少	—
(〃) 神関	甚	少	少	53.6	42.7	甚	中	少	—
(参考) 農林18号	多	中少	中	13.9	39.8	少多	少	中	12.0

備 考 穂首熱病の数字は罹病率を、線虫心枯病の数字は発病率を示す。

第3表 耐虫性及び倒伏

品 種 名	稈蠶被 害率	螟虫被 害率	倒 伏		
			昭25	昭26	昭27
ベニセンゴク	9.3%	25.3%	中	中	中
(比較) 神山	—	71.7	中	中	中
(〃) 神関	—	—	中	中	中
(参考) 農林18号	—	33.1	中	中	中
(〃) 農林22号	22.3	—	中	中	中
(〃) 農林37号	26.0	—	中	中	中

備 考 螟虫被害は二化螟虫第2化期の被害を示す。

収量は神山及び神関より多収であつて、農林18号よりも優る傾向があり、殊に多肥、晩植栽培において優る。玄米は中形、中粒で、品質並に食味は良好である。(第4表)

第 4 表 収 量 及 び 品 質

品 種 名	標 準 栽 培					多 肥 栽 培		晩 植 栽 培		檢 査 等 級
	精 籾 歩 合	籾 損 歩 合		反 当 玄 米 容 量	比 率	反 当 玄 米 容 量	比 率	反 当 玄 米 容 量	比 率	
		重 量	容 量							
ベニセンゴク	48	84	61	3,232	106	3,032	110	3,123	108	3
(比較) 神山	47	82	60	3,048	100	2,796	100	2,915	100	4
(") 神 岡	49	82	60	2,928	95	2,938	107	2,994	102	3
(参考) 農林18号	47	82	60	3,129	104	2,865	107	2,975	102	3

備 考 1. 昭和25年～同27年3ヶ年平均 2. 多肥栽培は標準栽培肥料の5割増
3. 晩植栽培は6月5日播種, 7月20日移植

適 地

九州各県農業試験場における試作成績を見るに(第5表), 北九州殊に有明海沿岸の平坦部における地力中庸以上の水田から肥沃地において性能を發揮するものの如く, 南九州の温暖瘠薄地では減収を示した。

又, 佐賀県内の試作成績によれば(第6表), 平坦肥沃地帯, 平坦地帯及び山麓地帯にて多収を示してい

るが, 草型より考え適応地の重点は前2地帯であつて山麓地帯では病害の憂いの少い, 地力中庸以上の水田に適応するものと思われる。

なお四国4県, 山口, 広島, 千葉の各県農業試験場においても適応性が検討されたが, 比較品種に対して優位性を示さなかつた。

第 5 表 九州各縣農試における試作成績(反当玄米収量)

品 種 名	佐 賀		福 岡		熊 本			大 分		長 崎	宮 崎		
	標 肥	標 肥	多 肥	標 肥	多 肥	阿 蘇	標 肥	多 肥	標 肥	標 肥	多 肥	標 肥	標 肥
ベニセンゴク	3,273 (109)	2,445 (103)	2,503 (112)	2,614 (107)	2,703 (112)	3,709 (105)	2,985 (112)	3,095 (111)	3,41 (106)	2,39 (92)	2,56 (96)	2,49 (90)	
(比較) 神山	2,988 (100)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(") 神 岡	3,130 (107)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(") 農林18号	3,026 (101)	—	—	2,487 (102)	2,350 (98)	—	3,101 (116)	3,009 (108)	3,40 (106)	2,61 (100)	2,69 (100)	2,76 (100)	—
(") 千本旭	—	2,401 (106)	2,453 (110)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(") 農林12号	—	2,261 (100)	2,233 (100)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(") 宝	—	—	—	2,437 (100)	2,405 (100)	3,531 (100)	—	—	—	—	—	—	—
(") 大分三井 120号	—	—	—	—	—	—	2,678 (100)	2,796 (100)	—	—	—	—	—
(") 神 愛	—	—	—	—	—	—	—	—	3,21 (100)	—	—	—	—

備 考 1. 佐賀は2ヶ年, 福岡は1ヶ年, 熊本は3ヶ年阿蘇寒冷地域試験地は1ヶ年, 大分は3ヶ年,
長崎は1ヶ年, 宮崎の標肥は3ヶ年, 同多肥は2ヶ年, 都城分場は3ヶ年の成績の平均を示す。
2. 括弧内は比率を示す。

第 6 表 佐賀縣内における試作成績

地 帯	試作点数	増収点数	減収点数	比較品種
平丘肥沃地帯	8	7	1	神 山 山
平 丘 地 帯	8	5	3	農 林 18 号
山 麓 地 帯	7	5	2	主 に 農 林 12 号
山 間 地 帯	3	0	3	農 林 37 号 綾 錦

備 考 昭和27年の成績

結 言

以上の結果から考察してベニセンゴクは北九州の平

坦肥沃地並に平坦地の地力中庸地域は多肥栽培に適するものの如く, 今後神山, 宝(道海神力), 神岡及び肥沃地, 中庸地の農林18号に対し相当に進出するものと考えられ, 又千本旭, 十石等の穂数型品種にも置換することが期待される。

殊に最近農家の米増産意欲が増大し, 且つ肥料事情の好転による肥料多施の傾向にあるとき, 本品種の如き強稈, 多収且つ相当に耐病性も高い品種は歓迎されよう。